

平成 21 年 6 月 17 日現在

研究種目： 基盤研究（C）
 研究期間： 2006年度～2008年度
 課題番号： 18520275
 研究課題名（和文） 異文化理解と偏見 キプリング、ハーン、ロティ、クローデル、ウェーリーの場合
 研究課題名（英文） Intercultural Relations between the Western World and Japan
 研究代表者 河島 弘美（KAWASHIMA HIROMI）
 東洋学園大学・人文学部・教授
 研究者番号： 40245329

研究成果の概要（200字程度）：異文化理解と偏見のあらわれた具体的なケースについて、各研究者がそれぞれ考察した。その対象は、ハーンを中心にウェーリー、シュレイデル、周作人、新渡戸稲造、モース、リーチ、柳宗悦、ピアソン等、多岐にわたるものである。

そして、異文化体験には西洋と非西洋の関係にとどまらない様々の場合があり、理解と偏見の諸相は個人の問題であると同時に文化的社会的背景の影響が大きく深いという事実も立証された。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	690,000	3,990,000

研究分野：比較文学・比較文化

科研費の分科・細目：分科：文学、細目：各国文学・文学論 2904

キーワード：比較文学、比較文化、異文化、ハーン、キプリング、ロティ、クローデル、ウェーリー

1. 研究開始当初の背景

ハーン来日百年、没後百年等を記念する国際シンポジウムを通じて、新に実りあるハーン研究にはグローバルな視野が欠かせないこと、また、ハーンをはじめとする具体的なケースの中に異文化体験、異文化理解の問題が明らかにあらわれていることが明確になった。

2. 研究の目的

異文化を体験する、理解するとはどういうことか、宗教とは何か、という重要な問題を共通のメインテーマとし、具体例に即しながらも広く様々の視点から、文化の出会いと衝突の意味を検証する。

3. 研究の方法

研究会の他、調査研究旅行の実施により研

究対象の人物ゆかりの各土地を検証するとともに、研究発表会を行った。

4. 研究成果

ハーンその他を中心に、異文化理解と偏見のあらわれた具体的なケースを、研究者各自が研究した。その成果は既に発表された論文や講演の他、2009年6月新曜社から発行予定の『講座小泉八雲』にも所収予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

- ① 牧野陽子「モースとハーンの横浜」成城大学経済学部『経済研究』185号 2009年7月(予定)、査読無し
- ② 河島弘美「市河三喜・晴子夫妻とハーン」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年3月、pp. 54-62、査読無し
- ③ 土谷直人「シュレイデルの日本体験」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年、p. 15-28、査読無し
- ④ 牧野陽子「日本思想のきりくち」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年、p. 42-46、査読無し
- ⑤ 劉岸偉「新渡戸稲造の異文化理解と日本の文化外交」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年、p. 29-41、査読無し
- ⑥ 橋本順光「ラフカディオ・ハーンの時事批評と黄禍論」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年、p. 47-53、査読無し
- ⑦ 平川祐弘「物の怪は文明開化の時代にどこに消えたのか」『科学研究費補助金(基盤研究C)「異文化理解と偏見」研究成果報告書』2009年、p. 1-14、査読無し
- ⑧ 平川祐弘「小泉八雲と永遠の女性」『モラロジー研究』63号、2009年、p. 1-25、査読無し
- ⑨ 牧野陽子「鈴木禎宏著『バーナード・リーチの生涯と芸術—「東と西の結婚」の

ヴィジョン』(ミネルヴァ書房、2006年)書評」、東大比較文学会『比較文学研究』92号、2008年、p. 148-154、査読無し

- ⑩ 劉岸偉「エクソフォニーの境地を問う」国際日本文化研究センター編『世界の日本研究—コミュニケーションを考える』2008年、p. 55-68、査読無し
- ⑪ 劉岸偉「周作人伝4」『言語文化論叢』第12巻、2008年、p. 1-36. 査読無し
- ⑫ 劉岸偉「周作人伝3」『言語文化論叢』第11巻、2007年、p. 1-22、査読無し
- ⑬ 平川祐弘「物の怪」『文学界』2006年、p. 10-12、査読無し
- ⑭ 土谷直人「日露文化交流にまつわる詩歌」『東海大学文学部紀要』2006年、84輯 p. 230-240、査読無し
- ⑮ 劉岸偉「周作人伝2」『言語文化論叢』(東京工業大学外国語研究教育センター紀要)第10巻、2006年、p. 1-33、査読無し

[学会発表] (計 9 件)

- ① 土谷直人「異文化理解の大大誤解—皆川博子の『猫舌男爵』をめぐる—」異文化理解と偏見研究会口頭発表、2009年2月17日、山形県大石田市
- ② 牧野陽子「ラフカディオ・ハーンの内面観」ノートルダム清心女子大学生活文化研究所主催生活文化講演会、2008年7月5日、ノートルダム清心女子大学
- ③ 土谷直人「文学に見る異文化理解と偏見—オルガ・トカルチックの『番号』、テネシー・ウィリアムズの『欲望という名の電車』とトーマス・マンの『魔の山』」異文化理解と偏見研究会口頭発表、2007年12月15日、成城大学
- ④ 劉岸偉「世界視野の中の小泉八雲」富山八雲会記念講演、2007年6月9日、富山市
- ⑤ 劉岸偉「新渡戸稲造の外交思想と異文化認識」中国社会科学研究会 20周年記念シンポジウム、2007年3月14日、東京国際文化会館
- ⑥ 牧野陽子「微笑む女」、二松学舎大学主催公開ワークショップ「日本文学の「女

性性’」2007年2月17日、二松学舎大学東アジア総合研究所

- ⑦ 土谷直人 「シュレイデルの見た日本」異文化理解と偏見研究会口頭発表、2007年2月6日、岩手県花巻市
- ⑧ 劉岸偉 「エクソフォニーの境地を問う—外国語で書くことの意味を考える」国際日本化研究センター外国人研究者シンポジウム、2007年1月12日、京都日教研
- ⑨ 土谷直人 「スラヴ世界の俳句」日本比較文学東京大会、2006年10月14日、東京工業大学

〔図書〕(計5件)

- ① 平川祐弘編、土谷直人、劉岸偉、牧野陽子、河島弘美、橋本順光『講座小泉八雲』全二巻、新曜社、2009年6月刊行予定
- ② 平川祐弘『アーサー・ウェイリー『源氏物語』の翻訳者』白水社、2008年
- ③ 河島弘美「ラフカディオ・ハーンの『心』を読む」東洋学園大学ことばを考える会編、リーベル出版、『心』、2008年、p. 26-38
- ④ 牧野陽子「西洋からみた『日本』、『日本思想史ハンドブック』苅部直・片岡龍編、新書館、2008年、p. 30-33
- ⑤ 土谷直人「スオヴァツキ選、和解、ハルトヴィック詩選 翻訳」『ポケットの中の東欧文学』成文社、2006年、p. 36-45、149-156、515-519

〔その他〕(計4件)

- ① 土谷直人「一茶と北信濃の文化」ブルガリアソフィア大学日本学科講演、2007年、ソフィア大学
- ② 土谷直人「現代日本文化論」ブルガリアヴェリコタルノヴォ大学日本学科講演、2007年10月、ヴェリコタルノヴォ大学
- ③ 河島弘美「小泉八雲の愛した日本」おやま市民大学市民講座日本文化コース講演、2006年12月、おやま市
- ④ 河島弘美「『小泉八雲』の誕生」、『長陽』秋号2006年8月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河島 弘美 (KAWASHIMA HIROMI)
東洋学園大学・人文学部・教授
研究者番号：40245329

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

土谷 直人 (TSUCHIYA NAOTO)
東海大学・文学部・教授
研究者番号：60147113
牧野 陽子 (MAKINO YOKO)
成城大学・経済学部・教授
研究者番号：70165687
劉 岸偉 (RYU GANI)
東京工業大学・外国語教育センター・教授
研究者番号：30230874
橋本 順光 (HASHIMOTO YORIMITU)
横浜国立大学・教育人間科学部・准教授
研究者番号：80334613
平川 祐弘 (HIRAKAWA SUKEHIRO)
東京大学・名誉教授
研究者番号：80012368